

<構想日本の掲載記事>

- 主張 外務省改革 国益守る外交力発揮を
産経新聞 2003.03.30
- 会計改革 地方から 住民票1通発行するコスト
670円なり 自治体、財政実態明るみに
朝日新聞 2003.03.17
- いまどき選挙事情4 住民自ら候補者吟味
広がる公開討論会 読売新聞 2003.03.14
- 論点 企業は誰のものなのか
読売新聞 2003.03.06
- トップリーダーたちの回答 TBS報道局[編]
日本経済は復活する！マーケットを知り抜く
33人のキーマンの不況脱出法「田中角栄体
制」は役割を終えた 道路公団民営化を突破口
に 榊原・薫のグローバルナビ 2003.03.05
- 年金の構造的問題 現行の年金制度はパー
チャルな仕組み 社会保険方式か税方式か選
択すべきだ。アエラ 2003.03.03
- CASE STUDY 自由な議論による政策づくり、
提言、実現をめざすNPO JAPAN INITIATIVE
「構想日本」社会教育2003年3月号 2003.03.01
- 財務創造 CFOの戦い 専門家に聞く 将来
見据え調達・配分 情報発信、社長をサポート
日経金融新聞 2003.02.26
- 発信源 公益法人改革に議論の場「現場」の
声反映目指す 日本経済新聞 2003.02.15
- 情報メディアは脳を壊すのか？ 構想日本フォ
ーラム開く「ゲーム脳」で論議子供の育ちを焦
点に 教育新聞 2003.02.10
- 5兆円の大損！ 厚生労働省は「年金の運用
やめる 週刊 現代 2003.02.08
- Governance Focus 国と地方の「事業の仕分
け」の作業結果公表 16県連合が仕掛ける地
方からの税財政改革
月刊 ガバナンス 2月号 2003.02.01
- 創立30周年記念シンポジウム パネルディス
カッション 「21世紀の公益法人と制度のあり
方を探る」をめぐる
公益法人 第32巻第2号 2003.02.01

● 政府（内閣府）案は大きな前進

政府が検討作業を進めている「公益法人制度の抜本的改革」。当初予定されていた2003年3月の閣議決定は、内閣府が示した「政府案」に対し、NPO法人や公益法人などから反対の声があがったため、4月以降にもち越しとなりました。

現在、非営利活動を行う法人は、「公益性」のレベルに応じ、中間法人、NPO法人、公益法人(財団・社団など)に分けられ、設立の手続きも「登記」→「認証」→「許可」と厳しくなります(下図参照)。一方、営利活動を行う会社は「登記」だけで自由に行うことができます(準則主義)。

さらに、非営利法人の種類に応じ税の優遇も決まっているため、「KSD事件」のように、いったん設立された公益法人が「無益」あるいは「私益」法人化しても、優遇は続いてしまいます。ここに一貫しているのは、「公益」(=世の中の役に立つ)かどうかは官が決め、その「お墨付き」を官から与えられた法人だけが税の優遇を受けるという考え方です。

当初の政府(内閣府)案は、「非営利法人」を「登記」により自由に設立できるとした点では、大変画期的なものです。“第1段階”の法人設立に官が口を出す余地をなくし、自由に非営利法人をつくれることにしたからです。ただし、当面はNPO法人をこれに含めない方針が示されていますが、将来的には一本化を目指すべきです。

現在の制度			
法人	設立	「公益」	税の優遇
営利法人 = 会社	登記	← ない →	← ない →
非営利法人	中間法人	← 登記 →	← ない →
	NPO法人	← 認証 →	← 小 →
	財団法人・社団法人	← 許可 →	← 大 →
政府(内閣府作成)による改革案			
非営利法人	登記	設立時には判断しない	設立後別途判断する

次の問題は、“第2段階”=優遇措置の判断の仕方です。政府案(内閣府)は、都道府県や第三者機関などが「社会貢献性」を認めたものに対して税の優遇を与えることを提案しています。この点も、大いに評価できます。ところが、税のしくみを検討する「政府税制調査会」では、「社会貢献性」を認められた非営利法人(登録法人)の中からさらに、官が寄付優遇を認める(認定法人)“3階建て”の改革案が示されています。これでは現在のしくみと変わらず、「改革」とはいえません。

改革の基本は、税の優遇を官が認める現在のしくみを変えることにあります。ですから、都道府県や第三者機関などが「社会貢献性」を認めた法人に対しては、寄付優遇も含めた税優遇を与える“2階建て”が改革の基本となるべき制度案です。

構想日本は設立当初より、官が「公益」を一元的に決める現在の「公益国家独占主義」の仕組みを、民(「世の中」を構成する人達)の判断を取り入れる仕組みに変えること(民法34条の改正など)を提言してきました。

この改革は、国の仕組みを「官」から「民」へと変える約100年ぶりの大改革です。この機会を逃さず、「私たち自身が世の中、国を担っていく大きな改革につなげていきましょう。

● 「NPO・公益法人制度改革 info-net」にご注目ください

構想日本は、上記のような政府の検討状況を非営利分野で活動する多くの方々にお伝えするため、NPO法人や公益法人のみならずと共「連絡係“info-net”」を発足させました。現在、新しい制度の枠組みや政府の動きなどを「info-net ニュース」として随時、発信しています。今後も、この改革を「いい」ものにするために、情報伝達活動に励んでいきますので、ご期待ください。過去の「info-net ニュース」など詳しくは、ホームページをご覧ください。 <http://www.kosonippon.org/prj/c/?no=08>

市町村
合併第1位が「慎重派」、つづいて「反対派」「積極派」
— 国会議員はどのように考えているか —

市町村合併は、住民の生活に直接影響をおよぼす大問題であると同時に、国の根幹に関わる重要な政治テーマです。そこで、構想日本は、(社)経済同友会、提言・実践首長会合併部会とともに、この問題に関する国会議員アンケートを実施し、政治家・政策データベースに各議員の考えを掲載しています。また、超党派の国会議員と首長による「政策ディスカッション『市町村合併を議論する』」を開催しました。

● 政治家・政策データベース アンケート実施

構想日本は、「国会議員が政策上の意見を十分に説明し、有権者がその情報を得て、評価し、投票する。」ために、『政治家・政策データベース』を作成し、定期的に、国会議員に対し、アンケートを実施しています。

今回は第7回目で、アンケートの途中集計結果は右の通りです。(3月13日時点)

『現在の市町村合併の進め方』に対する意見は、「慎重派」がトップ、あとに「反対派」「積極派」が続いています。各議員のページは、『政治家・政策データベース』のトップページから検索し、ご覧になることができます。

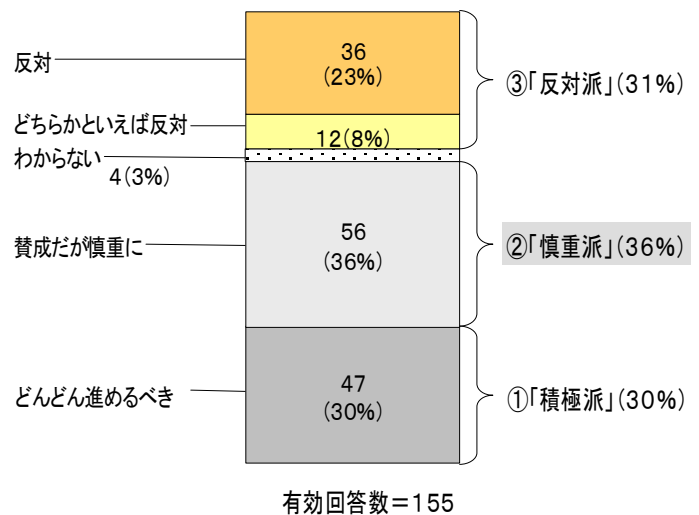
<http://db.kosonippon.org>

● 政策ディスカッション『市町村合併』を議論する

3月25日、衆議院会館会議室において、逢坂誠二 北海道ニセコ町長、高橋彦芳 長野県栄村長、穂坂邦夫 埼玉県志木市長、(社)経済同友会 江口克彦氏をお呼びして、衆参国会議員とディスカッションを行いました。(参加者計55名)

首長からは、「まずは、国と地方のあり方の議論をするべき」「合併の方法に多様性を持たせるべき」「財政悪化の根本的な原因は、小規模自治体が多いことにあるのではない」等の意見が出されました。共催者でもある江口氏からは「最も重要なことは意思決定の分散化。道州制にし、それぞれの州で市町村合併をどうしていくか決めたらよい。」との発言がありました。国会議員の主な意見は、以下の通りです。

(問)現在の市町村合併の進め方(政府が「基礎的自治体」という単位を設定し「合併」を奨励、財政的な優遇措置による誘導、など)について、どう思いますか？



合併推進派	合併慎重派	合併反対派
<p>私の地元は今のスキームで支障がないので、合併に伴う問題は気にならなかった。ただ、高齢化の進展を考えると、基礎的体力を持てるような自治体の規模が必要ではないか。(岩屋毅議員)</p> <p>合併協議会の設立すら反対する自治体がある現状で、地域の自主的な判断ができるのか疑問。西尾私案がだめだというなら、例えば介護保険業務に関するシミュレーションなどをして、必要な法整備を具体的に議論すべき。(鳥聡議員)</p>	<p>自治体が各自の価値観をもち、今の合併の動きに流されないことが大事。“合併”と叫んでいるだけで、何をするのかかわかっていない地域も多い。その点、JA合併が参考になる。(段本幸男議員)</p> <p>合併には、バリエーションが必要。そして、各々の行政サービスの格差を見せた上で、各自自治体が特色をもって合併を進めるべき。(上田清司議員)</p> <p>合併は選択肢のひとつ。全国一律というところに、中央集権的な考えがまだ残っている。財政の点でいえば、地方交付税頼りの行政に無駄があるのではないかと思っている住民が多い。(古川元久議員)</p>	<p>今の合併は、自治体の意見を十分に聞いていないのではないかと。財政悪化の根本原因である、国と地方の仕事とお金の仕分けもせずに、合併の期限と数の目標を掲げることは、そもそも間違い。(西川京子議員)</p> <p>なぜ市町村の数が1000なのか、なぜ平成17年なのか、答えがない。国の財政の失敗を、自治体に押しつけているだけ。また、特例債は、地方のモラルハザードを生み“合併バブル”をもたらす。(春名直章議員)</p> <p>市町村合併に反対してくれという地元の声が多い。まずは、国と地方の役割分担を通じて、“中央主権の打破”と“しっかりした地方自治”を進めるべき。(山内恵子議員)</p>

わかりやすい「バランスシート」で行政が変わる

— 先進自治体の取組み —

一時の“バランスシート（財務諸表）作成ブーム”が一段落した後、自治体の公会計改革の動きはむしろ活発になっています。その背景には、自治体行政の複雑化と財政の悪化、そして、アカウントビリティ（説明責任）に対する認識の高まりがあります。一方で、バランスシートの作成に当たり、市民により理解しやすく、また、作成した内容を有効活用できる手法の研究・開発が課題となっています。

● 群馬県太田市のセグメント財務諸表

群馬県太田市では、平成10年度決算から市全体のバランスシートや行政コスト計算書を作成し市民に公表してきました。これに加え、平成11年度決算から特定の事業に対する「セグメント財務諸表」の作成に取り組むことにより、「サービス単価」を算出し、費用対効果の分析や、使用料の妥当性、コスト削減等の方法などに活用しています。

平成13年度決算では、市内の3校をサンプルに学校給食のコスト計算を行いました。その結果、1食当たりの単価（機会費用を含めたフル・コストで評価）は、南小学校517円、強戸中学校511円、養護学校1,441円となり（表1参照）、これに対する市民の負担率はそれぞれ52.9%、41.0%、50.6%でした（表2参照）。

<表1 学校給食1食当たりのフル・コスト>

単位：円

学校名	支出コスト ①	発生コスト ②	間接コスト ③	総コスト④ (①+②+③)	機会コスト ⑤	フルコスト ④+⑤
南小学校	469	41	5	516	2	517
	41,748,299	3,678,591	445,778	45,872,668	146,778	46,019,446
強戸中学校	469	36	5	510	2	511
	39,809,335	3,044,800	445,779	43,299,914	134,760	43,434,674
養護学校	1,298	116	22	1,436	5	1,441
	25,835,181	2,299,938	445,776	28,580,895	99,316	28,680,211

- 上段は1食あたりのコスト、下段は各コストの総額
- 支出コスト：人件費や材料費など給食事業の運営に直接支出したコスト
発生コスト：建物の減価償却費など目に見えないコスト
間接コスト：直接給食業務に携わらないが、予算・決算などに携わる教育委員会職員の人件費
機会コスト：敷地を貸し付けた場合に得られる地代収入見込みとしての機会コスト

<表2 給食事業フルコストに対する市民負担>

単位上段は円、下段は%

学校名	フルコスト	利用者負担	国民負担	県民負担	市民負担
南小学校	46,019,446	20,322,124	186,319	1,168,782	24,342,221
	100	44.2	0.4	2.5	52.9
強戸中学校	43,434,674	22,609,379	154,042	2,829,668	17,841,585
	100	52.1	0.4	6.5	41.0
養護学校	28,680,211	5,057,271	189,127	8,913,782	14,520,031
	100	17.6	0.7	31.1	50.6

- 上段は各負担の総額、下段はフルコストに対する負担の割合
- 利用者負担：児童・生徒が納める給食費
- 国民負担：建物などに充てられた国庫支出金の分割額
- 県民負担：県支出金や県費負担栄養職員の人件費
- 市民負担：フルコストにおいて上記以外で充てられる一般租税

太田市で長く公会計を担当する長島榮一さんは、「企業会計的な見方とは、どんなものなのか？」このことを職員だけではなく、より多くの市民の皆さんに知ってもらいたい。行政の実情を公開することは、市民参加のまちづくりの大前提だからです。その点で、セグメント財務諸表の作成は非常に意義あることであり、引き続き職員、議会、市民における議論の材料を提供していきたいと思えます」と意欲的です。

● 「地方公会計研究会」の取組み

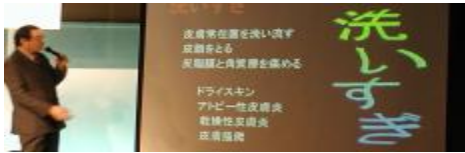
行政サービスに関する運営経費の節減努力や利用者数の増加を図るための様々な試みは、全ての自治体共通の課題です。行政に経営感覚を導入する必要性が叫ばれて久しいですが、財務諸表の作成と活用を取り入れることは、その具現化の有効な手法であるとともに、行政改革の取組みに具体的裏付けデータを提供することにつながるものとして大いに期待されるところです。

構想日本は、公会計改革に意欲的な市区町と共同で調査研究を行なっています。この「地方公会計研究会」のメンバーである各自自治体の取組みとしては、平成12年度は、秋田県で県営住宅、岩手県で県立大学、群馬県太田市で勤労青少年ホーム、13年度は、太田市で老人福祉センター、東京都文京区でスポーツセンターなど、福島県会津若松市で市営住宅、14年度は群馬県安中市と会津若松市で進行中です。このように、各自自治体でそれぞれの施策立案・運営への活用が始まっています。

2月25日第68回 J.I.フォーラム

「今問われる、きれい社会の落とし穴！」

—清潔って何？ アトピーからO157までを検証する—



藤田 紘一郎
東京医科歯科大学医学部 教授

40年前の日本にはなかった花粉症、気管支喘息、アトピー。これらの病気の患者は、最近特に急増し続け、今や"国民病"になっています。寄生虫学の藤田紘一郎氏によると、旧東ドイツと旧西ドイツを比較した場合、旧西ドイツの方が花粉症の人が多く、その原因は、同国の方が早くから「文明化」してきたためです。私達の体は、常に病原菌や細菌などの危険物に取り囲まれており、そうした"外敵"から身を守るために備わっている機能が「免疫」です。"きれい社会"は、そうした「免疫」機能から本来の"外敵"を奪ってしまうため、花粉のような本来は違うものを"外敵"として捉え、反応してしまうのです。

だから藤田氏ご自身の腸内に"飼って"いるサナダムシ「きよみちゃん」は、「(藤田氏が)アレルギーやガンにならないようにしている。こう考えると、抗菌グッズ、抗生物質による治療など、日本人の『清潔』志向はいき過ぎ。」と、氏は警鐘を鳴らします。



また、環境工学の小野芳朗氏は、「自分の体や家は、きれいにすることに余念がないが、それ以外は気にしなくてもいいというシステムが(社会全体に)できあがってしまっているところに、今の環境問題の根っこがあるのではないかと。」

小野 芳朗
岡山大学環境理工学部 教授

「いきいき」編集長片寄斗史子氏は、「本来は、自分の体で自分の『きよみちゃん』に聞かなければいけないことを、頭でやっている。」と、現代社会への「警告」を語って頂きました。

日本人は、一般的に清潔好きな国民だと言われています。ある便器メーカーは、「抗菌」は実は体に悪い(肌がかぶれる)と知りながら、「抗菌」と謳わないと売れないので、やむを得ず、商売の為に売ったという話です。

「抗菌靴下」「抗菌ブラウス」「抗菌まな板」など、抗菌グッズに躍らされがちな私たち消費者も、自らの行動について反省すべき点がありそうですね。



コーディネーター:
片寄 斗史子 「いきいき」編集長

3月24日第69回 J.I.フォーラム

「食の不思議」

—発酵食品のスゴさを通して人間の智恵と創造を考えなおす—



小泉 武夫
東京農業大学応用生物科学部 教授

「納豆」「甘酒」ともに江戸時代から親しんできた日本人の「食」。これらには、先人の大変な知恵が潜んでいます。たとえば納豆汁「江戸時代の庶民は肉類を食べられなかったから納豆を味噌汁に入れて食べた。」

『畑の牛肉』である大豆の蛋白質と牛のそれはほぼ同じ。だから、味噌汁は『畑の牛肉』が入った肉汁。

これに豆腐が加われば、「大豆3兄弟がお碗の中で揃い踏み」で、3食食べれば、摂取できる蛋白質は約80グラムのステーキを食べたのと同じ。」と小泉教授。

「江戸時代の人々にとって食べ物『薬』。食べ物が体を通して排泄されるというプロセスの中で、人間が生きていく、いい状態が保てる。それに失敗すると自分をだめにしてしまう。現代のように、おいしそうだから、珍しいからたくさん食べるとか、逆にダイエットのために食べないということはほとんどなかった。」法政大学の田中優子教授は、「食」は自分の体をつくっていくものといった日常生活の価値観が、現代は失われてしまったのではないかと警鐘を鳴らします。



コーディネーター:
田中 優子
法政大学社会学部 教授

3代目から納豆をつくらしている天野屋の5代目会長天野彌一氏は、「自分のところで使う豆は、北海道でも大粒の豆。大粒は一粒づつかんで食べると味があるのだが、今は、余りかまないですむという理由から小粒がはやり。そこで、小粒をつくってみたが、来店客には不評。だから今まで通り大粒だけをつくらしている」と、伝統の味のすばらしさを披露します。



天野 彌一
江戸時代創業
天野屋5代目会長

小泉教授によると、韓国で若者の「食」を調査したら、この20年間、伝統的な発酵食品「キムチ」の消費量は全然、変わらなかったのに対し、日本の若者について味噌汁を飲む機会が1日1回あるかなどを調べてみたら、まさしく「食」の保守性が失われていたそうです。私たちは今一度、食生活の原点である「食」＝「薬」に立ち戻り、失われつつある「日本型食事」のすばらしさをもう一度、見直すべきではないでしょうか。